香川県農業試験場研究報告　第 33 号(1981 年 9 月)　14-20

12 月どりレタスの中球生産と品質向上に関する研究

西谷国宏・清水康司

12 月どりレタスの中球生産と品質向上をはかるため,育苗日数,育苗条件ならびに本圃での施肥量との関係について検討した結果,つぎの点が明らかになった。

１．外葉の発育と球の大きさは,高い相関関係があり，定植直後の早い時期から外葉の生育が旺盛な場合には,大球になりやすいことが判った。しかし施肥量の調節のみで,外葉の生育,ひいては球の肥大を抑制することは不可能であった。

２．11 月上・中旬の外葉発育と,収量との間には,高い関連が認められた。この時期の外葉の発育を抑えることで,中球の生産が可能と思われる。そのためには若苗の定植を避け,育苗期間の長い苗を定植し,気温の低下する時期までに必要な外葉が確保でき,球の肥大充実期には,レタスの生育適温以下になるような栽培体系をとることが肝要である。ただ育苗期間が長すぎると,定植後の生育が遅延しすぎ,収量が大幅に減少するのでこの点注意する必要がある。